

# 救急医療費は8400万円…「優先順位をつけ予算措置」って本当？

2020年度の流山市一般会計予算は、「過去最大」の698億3千万円。予算特別委員会の審査を通じ、市議会各会派が共通して提出した『要請事項（議会共通事項・14項目）』の1項目には「救急医療を強化されたい」が盛り込まれました。市税だけでも前年度比18億6千万円も増加する下で、救急医療をめぐるどんな質疑が行われたのか…みなさんと一緒に考えます。

## 前年度予算と比較し、実質の増額は…

救急医療対策に係る予算経費		R 2	前年度比増減
諸委託料	休日診療所関連経費	1 0 5 7 万円	8 万円
	平日夜間診療所関連経費	2 8 0 4 万円	6 2 万円
	第2次救急医療機関指定業務委託料	8 5 9 万円	▲5 2 万円
負担金	夜間小児救急医療確保負担金	2 6 7 6 万円	▲8 万円
補助金	病院内保育運営費補助金★	1 4 0 万円	1 4 0 万円
	骨髄移植ドナー支援補助金★	2 1 万円	2 1 万円
交付金	第3次救急医療機関等交付金	5 0 万円	増減ナシ
貸付金	看護師等修学資金貸付金★	7 2 0 万円	7 2 0 万円
小 計（★は新規事業）		8 3 2 7 万円	8 9 1 万円
★を除く前年度比増減は10万円			

新型コロナウイルス感染症対策で最も重要な取り組みのひとつは、救急医療です。しかも、小児科医が激減するなかで、乳幼児を含め人口が増大している本市では、「救急医療」の維持・充実が不可欠です。しかし、新年度の救急医療の予算（約8400万円）のうち★（新規事業）を除けば、R2年度は、前年度から10万円しか増えていないのです。

## 「継続に課題」担当課が答弁

予算特別委員会では、小田桐たかし市議の質疑に、救急医療を担当する課では「小児救急は継続に課題がある」と認めるも、「第2次救急医療機関指定業務委託料」・「夜間小児救急医療確保負担金」は前年度より減額。

また、救急医療対策に係る経費以外に予算計上されている救急搬送患者1件毎に支払われる『医師謝金』制度も37年間改定されず、増額しない一方、市長

肝いりの『観光費』は史上最高の1億円超が予算化されました。「救急医療対策及び「医師謝金」制度こそ大幅引き上げを」と提案する小田桐市議に、市長は「優先順位をつけ、予算を措置した」と答弁。いのちを守る施策軽視の姿勢を明確にしました。

しかし、予算委員会協議会では、他会派も対策強化を求める立場が表明され、「救急医療を強化されたい」が共通要望事項に加えられました。

# コロナ対策 医療現場へ物資の緊急提供 前進



日本共産党 流山市議会議員

小田桐たかし



マスクや防護衣等を提供された医療スタッフと小田桐たかし市議（右から2番目）

入浴サービスの実施毎に増える折り鶴。生きた証であり、家族で過ごした証です。ご本人・ご家族、事業者の思い入れが詰まっています。



日本共産党市議会及び同党市委員会で、2月14日（4月3日まで、4回）わたり市長へ申し入れを行い、対策強化を求めました。

3月4日には、申し入れに盛り込まれたマスク等の物資が救急医療現場へ提供され、現場職員から喜ばれました。

実は、提供されたマスクは、新型インフルエンザ対策として購入していたもので、防災備蓄ではありません。

日本共産党小田桐市議の追及で、流山市として災害備蓄用のマスクの保管はゼロ。ドラッグストアやスーパーの在庫をあてにしていたからです。

さすがに、防災備蓄の担当課では、課題を認め、改善を約束しました。



入浴サービスの準備を行うスタッフ

「週1回、入浴できる環境を」：自宅でご家族を介護されている方からの訴えがあったのが昨年3月。昨年、議会で連続的に取り上げ、4月からは週2回（1年通して月8回）となります。

重度障がい者の在宅支援の一つである『訪問入浴』は、流山市の利用実績は1週当たり0.8回と、週1回が実現されていないことから、小田桐市議は、松戸市で月10回提供されている実績を示し、改善を求めました。

流山市では月3回から始まり、月4回（H16年度）へ、夏場のみ月8回（H21年度）と改善した歴史があり、小田桐市議はつねに一緒に取り組んできました。

## 週1回…入浴を 重度障がい者の在宅支援が拡充